

形となった。それ以来、北朝鮮は日本政府を相手にせず、拉致問題は終わったとして、両者の間に長い膠着状態が続くこととなったのである。昨年ようやく日朝協議が行われ、調査委員会設置と制裁緩和の同時行動が合意されたが、それも実現しなかった。

6. 鳩山政権のあるべき姿

今後、鳩山政権にとって4回の政治決着の失敗という現実から学ぶべきものがあると思う。なぜ、北朝鮮は怒っているのか、何を望んでいるのか良く考えて欲しいのである。そして、日本は何をするべきなのか、理性的にそして戦略的に知恵を絞ってもらいたい。

原則論を貫き、制裁路線にこだわっていたならば身動きが取れなくなる。甘いと言われても、対話路線の模索は必要である。いかなる民族が相手であろうと対話と交渉なくして和解はない。鳩山首相の国連演説にある北朝鮮の調査委員会の設置を、日本の制裁緩和と同時に行動し、それを糸口とすべきである。

そして、日朝平壤宣言の履行につなげていく。「過去の清算」を巡る左右の不毛な議論に関わりたくはないが、日朝平壤宣言にはっきりと謳われている。これも鳩山首相の国連での演説にあるように、日本政府としての公式な見解なのである。そうであるならば、「過去の清算」を具体化して準備し、堂々と行動する姿勢を提示することにより、北朝鮮の同時行動を求めていくべきではないだろうか。

(了)